愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【オン】アメリカ経済論		
担当者(Instructors)	若林 努	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

戦後のアメリカ経済の推移と日本経済、世界経済に与えた影響について理解する。アメリカ経済に関する関心は非常に高いが、アメリカは地理的、歴史的な観点から日本と比較して民族構成、社会体制、政治・経済制度において非常に高い多様性を有する。戦後から現在までのアメリカ経済の推移について年代、政権ごとに分析し、理解を深める。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	オンライン形式で行う

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	アメリカ合衆国の歴史概説	新興国家としてのアメリカ、移民国家、文化的多元性、政治システムの分権性・分散性について概説する。	□
第2回	1930年代の長期不況とニューディール	ニューディール政策の登場要因を概説し、全国産業復興法、農業調整法と農業政策、金融政策、財政政策を中心に概説し、その限界について説明する。	□
第3回	第2次大戦の戦時経済の経済発展とメカニズム	アメリカの戦時経済の展開の概要について、経済の拡張と高貯蓄体制、消費拡大を中心に説明する。	□
第4回	戦後経済への移行の特徴	大企業・巨大企業の発展と戦後の技術・産業基盤の強化について説明する。	□
第5回	戦後のパックス・アメリカーナ秩序の確立	国際通貨体制、自由貿易システムの再建、米英関係とアメリカの覇権の確立について説明する。	□
第6回	戦後パックス・アメリカーナの政治経済システムと持続的成長	アメリカ経済の持続的成長とインフレーション、アメリカ型大量生産システム、成熟した寡占体制の確立について説明する。	□
第7回	戦後の企業体制と政府政策	戦後の政府の経済安定化機能、連邦準備制度と金融政策、軍産複合構造と戦後の福祉国家の特質と豊かな社会の中の貧困について説明する。	□
第8回	戦後パックス・アメリカーナの世界的枠組みの構築	戦後の世界経済の体制を構築してきたIMF・GATT体制、そして基軸通貨ドルの散布とアメリカの国際収支構造について説明する。	□
第9回	戦後経済システムの限界と衰退(1)	戦後パックス・アメリカーナの衰退、IMF・GATT体制の問題、ドル危機とインフレーションの高進について説明する	□
第10回	戦後経済システムの限界と衰退(2)	ヴェトナム戦争とインフレーションの高進、「偉大な社会」プログラム、基幹産業の国際競争力の衰退とドル危機について説明する。	□
第11回	1970年代のスタグフレーションとアメリカ産業の衰退	スタグフレーションと石油危機、個々の産業の競争力の衰退について説明する。	□
第12回	1980年代の経済再活性化の模索(レーガノミックス)	レーガノミックスの特徴と内容、財政赤字、双子の赤字、保護主義の台頭について説明する。	□
第13回	1990年代のアメリカ経済とニューエコノミー論	クリントン政権下の不況からの回復、長期不況の要因とニューエコノミー論について説明する。	□
第14回	2000年代のアメリカ経済	ブッシュ、オバマ両政権下の経済政策の特徴とその成果について概説し、現在直面している経済問題について説明する。	□
第15回	2010年代のアメリカ経済の現状	トランプ大統領の経済政策について説明する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

①事前学習として2時間程度、次回のテーマについて指示するリーディングアサイメントに目を通し経済の動向を把握する。 ②事後学習として2時間程度、講義内容の確認と講義で指摘した専門用語(英語)の理解を深める。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

①提出されたレポートは、添削・採点しコメントをつけて返却する。 ②レポートの課題について、翌週の講義で振り返りを行い理解を深める。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019国際ビジネスDP1	アメリカ経済の概要を説明できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	0%	100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義の課題に関するレポートを採点して総合評価を行う。課題レポートの提出・未提出によって出欠も併せて行う。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	講義ノート『アメリカ経済論Note』を配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	講義内で紹介する。	
2		
3		
4		
5		